



2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年8月12日

上場会社名 中央化学株式会社 上場取引所 東
 コード番号 7895 URL <https://www.chuo-kagaku.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 近藤 康正
 問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 部長代行 (氏名) 三膳 一志 TEL 048-542-2511
 四半期報告書提出予定日 2020年8月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第1四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	12,029	△1.8	482	41.4	454	120.6	400	120.7
2020年3月期第1四半期	12,254	△8.3	341	—	205	—	181	△80.1

(注) 包括利益 2021年3月期第1四半期 420百万円 (479.4%) 2020年3月期第1四半期 72百万円 (△93.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	19.86	15.71
2020年3月期第1四半期	9.00	7.12

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	34,484	7,085	20.5
2020年3月期	34,608	6,665	19.3

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 7,085百万円 2020年3月期 6,665百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	24,600	△0.6	600	△1.3	400	29.2	300	24.2	14.89
通期	48,400	0.8	1,300	17.3	1,000	33.1	800	67.0	39.70

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 — (社名) —、除外 — 社 (社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期1Q	21,040,000株	2020年3月期	21,040,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	891,140株	2020年3月期	891,140株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期1Q	20,148,860株	2020年3月期1Q	20,148,860株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、外出自粛や休業要請等による消費の冷え込み、世界各国の工場停止に伴うサプライチェーン障害等により急速に悪化しました。5月下旬に緊急事態宣言が解除された後は、段階的に経済活動は再開しておりますが、依然として感染収束の目途が立たず、先行き不透明な状態が続いております。

当食品包装容器業界におきましては、イベント、行楽、外食、インバウンド等向けの需要が急激に減少する一方、外出自粛、テレワーク推進等の生活スタイルの変化により、中食・内食向け需要が喚起され、テイクアウトやスーパーマーケット向け容器等の出荷が増加しております。

こうした中、「食」に関わる事業会社である当社は、全社にわたって衛生・安全管理を徹底し、製品の安定供給に最善を尽くし、生活に欠かすことの出来ないインフラとして、ライフラインの役割を果たしてまいりました。

当社は、「汎用容器事業の基盤強化」、「成長市場へのアプローチ」を事業戦略に掲げ、「お客様第一主義」、「現場第一主義」の徹底により、さらなる競争力強化、企業価値の向上に努めると共に、世界的な環境意識の高まりの下、素材・製品開発をはじめとして環境対応の取り組みを強化しております。

海洋プラスチックごみ、CO₂排出等による地球温暖化、フードロス等環境問題に対して、90年代より取り組んでまいりました使用済みプラスチック食品包装容器の店頭回収を加速すると共に、環境配慮型素材・製品の開発・上市に取り組んでおります。CO₂排出削減を目的に使用済みPETボトルを原料に用いたリサイクルPET素材「C-APG」の拡販を推進しています。また、天然資源であるタルク（滑石）を主原料にプラスチックの使用量を50%未満に抑えた環境配慮型素材「TALFA(タルファー)」を5月に上市しました。さらに、バイオ成分を含む環境配慮型素材「バイオCT」、「バイオCF」の開発に取り組み、食品ロス削減に寄与する「ロングライフ容器」の提案、拡販に注力しております。

こうした活動の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高が12,029百万円（前年同期比1.8%減）、営業利益482百万円（前年同期比41.4%増）、経常利益454百万円（前年同期比120.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は400百万円（前年同期比120.7%増）となりました。

所在地別セグメントの業績は次のとおりであります。

(日本)

営業面では、外出自粛、テレワーク推進等の影響により中食・内食向け需要が高まる中、イベント、行楽、外食、インバウンド等向け需要が急激に減少し、また、都市部を中心にコンビニエンスストア向け需要が落ち込む一方、テイクアウト需要の高まり、スーパーマーケットでの惣菜分野から生鮮分野への需要シフトが鮮明化しました。これにより弁当容器、発泡PSPトレイ、納豆容器、タレビン等、長年ご愛顧頂いている当社製品の出荷が増大しました。

また、消費者の環境意識の高まりからリサイクル素材「C-APG」が評価され、ミールキット容器、フルーツ容器、寿司容器等で販売が伸びております。

生産面では、品質、原価、技術の一段の実力向上を方針とし、現場改善活動の強化、生産現場での仕事の標準化、製造歩留や原材料配合効率の改善を継続実施し、生産性の向上を図っております。品質管理について、担当組織を生産・技術本部長直轄とし、体制強化を図っています。また、新型コロナウイルス感染予防を徹底し供給責任を果たすべく最善を尽くすと共に、出荷が増した製品等の増産に向け、中国生産拠点を含め全社ベースでの最適生産体制を敷いております。

研究開発面では、2月の展示商談会で好評を博しました環境配慮型素材のTALFA(タルファー)の研究・試作を行ない、5月に新製品の量産を開始いたしました。市場ニーズに即し一段の環境対応を進めるべく、さらなる新素材・新製品への開発に取り組んでおります。

テイクアウト、スーパーマーケット向けが好調な一方、イベント、行楽、外食等は不振で、売上高全体では前年同期比減少となっておりますが、製造変動費率の改善に加え、経費の削減もあり、利益率は前年同期比で改善しております。

この結果、当該セグメントの売上高は10,419百万円（前年同期比4.6%減）、営業利益は413百万円（前年同期比10.1%増）となりました。

(アジア)

日本に先駆けて新型コロナウイルス感染拡大が深刻であった中国では、外出をはじめ制限が極めて厳しい中、全拠点において感染防止対策の徹底を徹底し、2月上旬の中国正月明け以降安定操業を継続しています。また、緊急物資が必要な地域からの協力要請にも全力で対応してまいりました。

営業面では、鉄道関係の弁当容器等需要の減少している分野もある一方、外食から中食への食生活のシフトに伴い、テイクアウト用の弁当容器、スーパーマーケット向け容器等の売り上げ等が大幅に増加しております。

生産面では、3工場間最適体制、日本との協業を強化することに加え、自動化設備の稼働率向上、コスト削減を進め、原価低減に取り組んでおります。また日本同様、環境配慮型素材・製品の拡充を進めております。

この結果、当該セグメントの売上高は1,810百万円(前年同期比21.2%増)、営業利益は204百万円(前年同期比152.3%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

資産は、受取手形及び売掛金の増加247百万円等があった一方、現金及び預金の減少111百万円や、原材料及び貯蔵品の減少86百万円、仕掛品の減少81百万円、機械装置及び運搬具の減少73百万円等により、前連結会計年度末と比べ124百万円減少し34,484百万円となりました。

(負債)

負債は、支払手形及び買掛金の増加456百万円や、未払金の増加264百万円等があった一方、長期借入金の減少760百万円等により、前連結会計年度末に比べ544百万円減少し27,398百万円となりました。

(純資産)

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益400百万円等により、前連結会計年度末に比べ420百万円増加し7,085百万円となり、自己資本比率は20.5%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、2,722百万円となり前連結会計年度末に比べ117百万円の減少となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費505百万円、税金等調整前四半期純利益456百万円、仕入債務の増加433百万円等があった一方、売上債権の増加259百万円等があり、1,244百万円(前年同期比723百万円の増)の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の売却による収入67百万円があった一方、固定資産の取得による支出261百万円等があり、211百万円(前年同期比97百万円の減)の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出885百万円やリース債務の返済による支出260百万円があり、1,145百万円(前年同期比1,037百万円の増)の支出となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染拡大により、当社グループに与える影響を合理的に見積もることが困難であったため、業績予想を未定としておりましたが、当第1四半期までの業績および現時点で得られた情報にもとづき算定いたしました。

詳細につきましては、本日(2020年8月12日)公表いたしました「業績予想に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,845	2,734
受取手形及び売掛金	7,360	7,608
商品及び製品	4,897	5,014
仕掛品	713	632
原材料及び貯蔵品	1,168	1,081
その他	1,498	1,443
貸倒引当金	△16	△10
流動資産合計	18,468	18,504
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,011	4,941
機械装置及び運搬具(純額)	2,713	2,640
土地	4,290	4,225
リース資産(純額)	2,508	2,496
建設仮勘定	142	207
その他(純額)	461	449
有形固定資産合計	15,127	14,960
無形固定資産		
リース資産	51	46
その他	334	323
無形固定資産合計	385	370
投資その他の資産		
投資有価証券	268	287
長期貸付金	150	148
破産更生債権等	11	18
繰延税金資産	80	82
その他	288	290
貸倒引当金	△172	△178
投資その他の資産合計	626	649
固定資産合計	16,140	15,980
資産合計	34,608	34,484

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,962	6,418
電子記録債務	1,862	1,824
短期借入金	5,000	5,000
1年内返済予定の長期借入金	3,995	3,870
リース債務	1,006	947
未払金	1,971	2,236
未払法人税等	163	48
未払消費税等	277	263
賞与引当金	271	151
資産除去債務	11	11
その他	602	596
流動負債合計	21,126	21,367
固定負債		
長期借入金	3,350	2,590
リース債務	2,000	2,026
役員退職慰労引当金	38	40
退職給付に係る負債	886	854
債務保証損失引当金	9	9
資産除去債務	8	8
その他	524	501
固定負債合計	6,817	6,030
負債合計	27,943	27,398
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,212	7,212
資本剰余金	6,787	6,787
利益剰余金	△6,402	△6,002
自己株式	△1,169	△1,169
株主資本合計	6,427	6,827
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	34	45
繰延ヘッジ損益	2	0
為替換算調整勘定	519	509
退職給付に係る調整累計額	△318	△297
その他の包括利益累計額合計	237	257
純資産合計	6,665	7,085
負債純資産合計	34,608	34,484

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	12,254	12,029
売上原価	9,146	8,836
売上総利益	3,108	3,193
販売費及び一般管理費	2,767	2,710
営業利益	341	482
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	5	5
受取賃貸料	10	9
持分法による投資利益	11	10
その他	35	24
営業外収益合計	65	53
営業外費用		
支払利息	43	39
売上割引	10	10
為替差損	115	5
その他	32	25
営業外費用合計	201	81
経常利益	205	454
特別利益		
有形固定資産売却益	—	1
特別利益合計	—	1
特別損失		
固定資産除売却損	4	0
特別損失合計	4	0
税金等調整前四半期純利益	201	456
法人税、住民税及び事業税	19	58
法人税等調整額	0	△2
法人税等合計	20	56
四半期純利益	181	400
親会社株主に帰属する四半期純利益	181	400

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
四半期純利益	181	400
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10	10
繰延ヘッジ損益	△7	△1
為替換算調整勘定	△112	△10
退職給付に係る調整額	21	21
その他の包括利益合計	△108	20
四半期包括利益	72	420
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	72	420

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	201	456
減価償却費	578	505
持分法による投資損益(△は益)	△11	△10
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2	0
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△14	△11
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	2	2
受取利息及び受取配当金	△9	△9
支払利息	43	39
為替差損益(△は益)	38	△0
有形固定資産除却損	4	0
有形固定資産売却損益(△は益)	—	△1
売上債権の増減額(△は増加)	△39	△259
たな卸資産の増減額(△は増加)	△154	44
仕入債務の増減額(△は減少)	△291	433
未払消費税等の増減額(△は減少)	△78	△14
その他	324	209
小計	591	1,385
利息及び配当金の受取額	9	9
利息の支払額	△40	△36
法人税等の支払額	△39	△113
営業活動によるキャッシュ・フロー	520	1,244
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△47	—
固定資産の取得による支出	△195	△261
固定資産の売却による収入	—	67
定期預金の預入による支出	△6	△6
投資有価証券の取得による支出	△3	△3
その他	△58	△7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△309	△211
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	316	—
長期借入れによる収入	300	—
長期借入金の返済による支出	△399	△885
リース債務の返済による支出	△324	△260
財務活動によるキャッシュ・フロー	△107	△1,145
現金及び現金同等物に係る換算差額	△79	△4
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	24	△117
現金及び現金同等物の期首残高	3,661	2,839
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,686	2,722

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定について、前連結会計年度から重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	アジア	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,888	1,366	12,254	—	12,254
セグメント間の内部売上高 又は振替高	27	128	155	△155	—
計	10,916	1,494	12,410	△155	12,254
セグメント利益	375	81	456	△115	341

(注) 1. セグメント利益の調整額△115百万円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	日本	アジア	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,402	1,627	12,029	—	12,029
セグメント間の内部売上高 又は振替高	17	182	200	△200	—
計	10,419	1,810	12,229	△200	12,029
セグメント利益	413	204	618	△135	482

(注) 1. セグメント利益の調整額△135百万円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。